平成３１年１月

各　位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート 平成３１年１月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださるようお願いいたします。

さて、市では、昨年１２月に平成３０年の１０大ニュースを発表しました。

《平成３０年 八戸市１０大ニュース》

1. ヴァンラーレ八戸　Ｊ３参入決定　青森県初のプロサッカーチーム誕生（１１月）
2. 八戸まちなか広場「マチニワ」オープン　シンボルオブジェ「水の樹」設置（７月）
3. 県内でスーパー展開の「マエダ」が「みなとや」買収へ　八戸に初進出（８月）
4. ２月１７日「えんぶりの日」制定へ　市内全小中学校が休業（１０月）
5. 八戸市屋内スケート場ネーミングライツスポンサー、株式会社吉田産業に決定「ＹＳアリーナ八戸」に（９月）
6. 八戸ワインお披露目　一般販売では即日完売（１月）
7. 丹後平古墳群の出土品　国重要文化財に（３月）
8. 八戸・屋内スケート場「世界ジュニア」大会に内定　初の国際大会開催へ（６月）
9. 八戸圏域版ＤＭＯ設立へ　関係３団体が統合合意（７月）
10. 八戸・新大橋　架け替え工事で２０１９年春から通行止め（２月）

平成３０年も、ヴァンラーレ八戸のＪ３参入決定や、八戸まちなか広場「マチニワ」のオープンなど、明るいニュースが多い年でした。

今年、八戸市は市制施行９０周年を迎えます。産業や観光、文化など様々な側面で、昨年以上に明るいニュースがありますことを願っております。

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町 2-4-2 全国都市会館５階

電話　(03) 3261-8973／FAX　(03) 3239-6723

E-mail:　tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸レポート 1月号

平成30年12月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
（1）	マリエント開館３０年記念式典開催　歩み振り返り節目祝う
（2）	八戸駅西開発の中核　多目的アリーナ着工へ
（3）	八戸市 「中枢中核都市」に選定
（4）	八戸港外航コンテナ航路　誘致へ補助金拡充

【産業】

記事	概要
（5）	八戸酒造　入浴料「八仙美人の湯」発売　～酒かす風呂楽しんで～
（6）	八食センター　県内農家直売コーナー「八食ファーマーズ倶楽部」設置
（7）	全国ご当地どんぶり選手権 「銀サバトロづけ丼」で真の王座へ挑戦
（8）	１～１０月　青森県内宿泊外国人　年間最多更新の２５万人
（9）	八戸港　全国主要港の水揚げランキングで６位

【地域】

記事	概要
（１０）	全国小・中学校PTA広報紙コンクール　桔梗野小の「水目沢」が入賞
（１１）	大豆研究の八学大女子ラグビー部 「世界健康フォーラムモナリザ賞」受賞
（１２）	八工大生　標準語を南部弁に翻訳「OK,Hougen」アプリ開発
（１３）	「八戸子どもの本の会」 全国優良読書グループに
（１４）	アライグマ 生息域拡大　八戸、十和田で痕跡
（１５）	冬の八戸に南の海から珍客 「テングダイ」が水揚げ
（１６）	青森県学校給食献立コンクール　八戸盲学校が最優秀賞

【文化・スポーツ】

記事	概要
（１７）	五輪メダリストの岡崎朋美さん　スケート教室で特別コーチ
（１８）	ヴァンラーレ八戸　新監督に大石篤人氏
（１９）	うみねこマラソン 「チェコ杯」創設へ
（２０）	３人制バスケ「３x３」 プロチーム「八戸DIME」発足

【行政】

記事	概要
（1）	**マリエント開館３０年記念式典開催　歩み振り返り節目祝う** 八戸市水産科学館マリエントの開館30年記念式典が12月1日、同館で開かれた。同館は1989年に開館。さまざまな水中生物などを展示しており、現在は、アオウミガメをはじめとする海の生き物の展示で人気を集めている。また、館内には2007年、国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）所有の地球深部探査船「ちきゅう」を紹介する「はちのへ『ちきゅう』情報館」が設置され、「『ちきゅう』探検クラブ」の活動拠点にもなっている。式典には関係者約150人が集まり、海洋学習に大きな役割を果たしてきた同館のこれまでの歩みを振り返り、さらなる発展を誓った。
（2）	**八戸駅西開発の中核　多目的アリーナ着工へ** 八戸駅西地区で八戸市と民間が連携して進める多目的施設「フラットアリーナ」の建設工事が本格化するのを前に、事業者のクロススポーツマーケティングは12月13日、アリーナを含めた整備エリア「フラット八戸」の起工式を開催した。フラットアリーナは、アイスリンクの上に移動式のフロアを設置できる通年型の施設。メインとなるアイスホッケーのほか、バスケットボールなど各種スポーツに対応可能で、コンサートや地域行事の開催場所としても活用できる。平成30年12月に着工し、2020年春のオープンを目指す。
（3）	**八戸市　「中枢中核都市」に選定** 政府は12月18日、東京への人口流失を防ぐため、圏域全体の経済や住民生活を支える拠点としての役割を担う「中枢中核都市」に、八戸市や青森市など全国82市を選定した。中枢中核都市は国から都市機能の強化に向けた支援などが受けられる。両市は今後、支援策を有効活用し、圏域全体の発展を目指す。小林眞市長は「人口減少に対するさまざまな施策に取り組んできた中、国のさらなる支援策が受けられるのは、今後の施策推進に弾みがつく」と歓迎。今後、国の支援策を精査しながら具体的な対応を検討する考えを示した。
（4）	**八戸港外航コンテナ航路　誘致へ補助金拡充** 八戸港への外航コンテナ定期航路の誘致で、八戸市は12月19日、航路を開設する船会社に対する八戸港国際物流拠点化推進協議会からの補助金を、青森県と協議の上で大幅に拡充する方針を明らかにした。八戸港での外航コンテナ定期航路に関し、同協議会は開設に関する補助制度を設けており、入港料や荷役機械使用料などを対象に、年間最大200万円を援助している。船会社向けの補助金拡充は、より高いメリットを提示し、八戸港の利用を促すのが狙い。航路誘致に関する競争が国内外で激化する中、新たな航路の開設につなげたい考えである。

【産業】

記事	概要
（5）	**八戸酒造　入浴料「八仙美人の湯」発売　～酒かす風呂楽しんで～** 八戸酒造は12月10日、酒かすを使った浴用入浴料「酒粕バスボム　八仙美人の湯」を発売した。同社の代表的な銘柄の一つ「陸奥八仙」の酒かすや、美容健康素材「プロテオグリカン」（あおもりPG）などを使用し、肌の潤いを保つ美容成分をふんだんに詰め込んだ。原材料には、パウダー加工した酒かすやプロテオグリカンのほか、野田村の粗塩と宮城県登米市のショウガパウダーも使用。“メードイン東北”にこだわった。商品はラベンダーやユーカリなど香りの異なる全6種で、各680円（税抜き）。

（６）	**八食センター　県内農家直売コーナー「八食ファーマーズ倶楽部」設置** 八食センターは12月9日、青森県南地方の農家有志らで構成する「八食ファーマーズ倶楽部」の直売コーナーを同センター内に設置し、メンバーが手掛けたりんごジュースや黒ニンニクといった加工品の販売を始めた。同倶楽部は、地域農業の活性化や農家同士のつながり創出などを目的に八食センターが2018年4月に結成。現在、無農薬や有機農法による生産、加工に取り組んでいる19戸の農家が加入している。常設のコーナーでは現在、5戸が出品した加工品を販売しており、今後他の農家の商品も増やしていく予定。
（７）	**全国ご当地どんぶり選手権　「銀サバトロづけ丼」で真の王座へ挑戦** 1月11～20日に東京ドームで開催される「ふるさと祭り東京2019」の全国ご当地どんぶり選手権に、日本の味俵屋（八戸市）が八戸銀サバトロづけ丼を出品する。どんぶり選手権は、2010年から毎年開催。八戸銀サバトロづけ丼は2016、2017年に2年連続でグランプリを獲得している。今回は第10回の記念大会との位置付けで、同社を含む過去に殿堂入りした「殿丼（殿堂入り丼）」も人気投票に参加。うにめし丼（北海道）や米沢牛ステーキ丼（山形県）といった他の殿丼も出品され、"真のチャンピオン丼"を決める。
（８）	**１～１０月　青森県内宿泊外国人　年間最多更新の２５万人** 観光庁が発表した国内の宿泊旅行統計調査によると、1～10月に青森県内に宿泊した外国人は延べ数で25万150人（前年同期比27.1%増）となり、2017年1年間の24万2980人を抜き、2007年の統計開始以降の最多を更新した。国・地域別では、台湾が7万7700人（21.9%増）で最多。県は青森空港発着の国際線就航や増便、積極的な誘客活動の成果が表れたとみており、今後も県内の魅力発信に力を入れる方針である。
（９）	**八戸港　全国主要港の水揚げランキングで６位** 八戸市水産事務所が12月30日、八戸港を含む全国主要港の水揚げランキングを発表した。八戸は数量10万8192トン（前年比8.2%増）で6位と、前年から順位を一つ上げたものの、金額は181億1987万円（9.4%減）で10位と、一つ下げた。数量では銚子港（千葉県）が25万2386トンで1位。焼津港（静岡県）が2位、釧路港（北海道）が3位と続いた。三陸では6位の八戸のほか、7位の石巻港、9位の気仙沼港（いずれも宮城県）がトップ10入りした。

【地域】

記事	概要
（１０）	**全国小・中学校PTA広報紙コンクール　桔梗野小の「水目沢」が入賞** 第40回全国小・中学校PTA広報紙コンクールで、八戸市立桔梗野小のPTA広報委員会が発行する「水目沢」が教育家庭新聞社社長賞に輝いた。広報紙のタイトルの水目沢は、地域の地名が由来。「子どもや保護者、教員、地域住民など、学校に関わる全ての人を巻き込んで作りたい」という方針の下に、教員に対する読書意識などのアンケートや、スクールカウンセラーからの子育てアドバイスなど、委員が企画、取材した豊富な記事が特徴で、そんな優れた紙面作りが評価された。全国4934校から応募があり、44校が入賞した。

（１１）	**大豆研究の八学大女子ラグビー部 「世界健康フォーラムモナリザ賞」受賞** 大豆食品がアスリートの体に与える影響について研究している八戸学院大女子ラグビー部が、食育や食環境の改善に寄与する取り組みなどを表彰する「世界健康フォーラムモナリザ賞」を受賞した。同部は、2018年8月に三戸町の太子食品工業と連携協定を結び、同社から提供された納豆や豆腐などの大豆食品を積極的に摂取している。部員らは、採尿データを蓄積し、健康への影響などについての研究を進める予定で、一連の活動が評価された。
（１２）	**八工大生　標準語を南部弁に翻訳「OK,Hougen」アプリ開発** 若い人に南部弁に親しんでもらい、方言の継承につなげようと、八戸工業大の学生が、標準語を南部弁に翻訳するアプリ「OK,Hougen」を開発した。パソコンにつないだマイクに向かって標準語をしゃべると、対応する南部弁の音声が出る仕組み。試作段階のため、現在は事前に登録した限られた単語しか翻訳できないが、人口知能(AI)を活用するなどして将来的にはさまざまな言葉を南部弁に訳せるよう改良を重ねる考え。一方、南部弁から標準語への変換には対応しておらず、研究は継続する。
（１３）	**「八戸子どもの本の会」 全国優良読書グループに** 八戸市内で絵本の読み聞かせを行うボランティア団体「八戸子どもの本の会」が12月13日、公益社団法人読書推進運動協議会の全国優良読書グループとして表彰を受けた。同協議会は「読書週間」事業の一環として、毎年、全国各地の読書に関する優秀な取り組みを表彰しており、本年度は全国から34グループが選ばれた。八戸子どもの本の会は1977年11月、読書の推進や絵本の研究などを目的に発足。現在の会員は11人で、市立図書館で毎週土曜日、市内保育園では年に10回程度、子どもたちに紙芝居や絵本の読み聞かせを行っている。
（１４）	**アライグマ 生息域拡大　八戸、十和田で痕跡** 青森県内では津軽地方でのみ確認されていたアライグマの生息が、県南地方へも拡大していることが、県の調査で分かった。本年度に調査を実施した八戸、十和田両市では広範囲で生息の痕跡が認められ、近隣市町村へも着実に生息域を広げているとみられる。12月14日には、八戸市で初の捕獲対策研修会が開かれた。アライグマの生態に詳しい関西野生生物研究所（京都市）の川道美枝子代表は、「アライグマは食害のみならず、狂犬病などを媒介しやすいため、感染が広がれば生態系にも深刻な打撃を与えかねない」と、各自治体が一斉に捕獲態勢を整え、初期段階で頭数拡大を防ぐよう呼び掛けた。
（１５）	**冬の八戸に南の海から珍客 「テングダイ」が水揚げ** 寒い冬の八戸に南の海から珍客が現れた。八戸港で12月17日、平べったくて口がとがった魚「テングダイ」が水揚げされた。てんぐの鼻のように突き出た口と、大きな黄色い背びれが特徴。通常は南の暖かい海にすんでおり、日本近海では小笠原諸島や南日本に分布している。北の海で取れるのは珍しい。南日本では刺し身や煮付けなどで食べられるという。「過去に一度だけ水揚げされたのを見た記憶がある」とベテランの市場関係者は話していた。

（１６）	**青森県学校給食献立コンクール　八戸盲学校が最優秀賞** 青森県立八戸盲学校の生徒と教諭が考案した献立「南部のすけ2018」が、県学校給食献立コンクールで最優秀賞に輝いた。コンクールには県内の小中学校、特別支援学校の計21チームから応募があり、書類審査を通過した10チームが調理審査に進出した。食用菊「阿房宮」のゼリーやトウモロコシ「郷のきみ」の炊き込みご飯など、県南地方の特産食材をふんだんに使ったのが特徴。献立は中学部3年の河原木菜々さんら3人の生徒と2人の教諭が考案した。12月21日には同校で給食として提供され、子どもたちが笑顔で味わった。

【文化・スポーツ】

記事	概要
（１７）	**五輪メダリストの岡崎朋美さん　スケート教室で特別コーチ** 長野冬季五輪スピードスケート500メートル銅メダリストの岡崎朋美さんが12月2日、八戸市長根リンクで開かれた小学生対象のスピードスケート教室（市主催）で、特別コーチを務めた。教室は「氷都八戸パワーアッププロジェクト」の一環で、同市や近隣の町村から小学生約250人が参加。全9回の日程で、29日まで毎週末に開かれた。岡崎さんは滑る際のフォームや足の動かし方を、実演を交えて指導。「できると信じて、自信を持って取り組むことが大切」と、子どもたちにエールを送った。
（１８）	**ヴァンラーレ八戸　新監督に大石篤人氏** 来季からサッカーのJ3に参入するヴァンラーレ八戸の新監督に、J3藤枝MYFCを率いた経験のある大石篤人氏(42)が就任することが分かった。大石氏は大阪府出身。前橋育英高（群馬県）、大阪学院大（大阪府）、第一学院高（茨城県）でコーチや監督を歴任し、J3がスタートした14年に藤枝のヘッドコーチに就いた。15年からは監督として3季チームを率いたが、4季目だった昨季7月に退任している。ヴァンラーレ八戸は新指揮官の下、新体制でJ3初年度に挑むことになる。
（１９）	**うみねこマラソン　「チェコ杯」創設へ** 戦前に活躍した日本人女性初の五輪メダリストで、八戸市とチェコにゆかりのある陸上選手の故人見絹枝さん（岡山県出身、1907～31年）の功績をたたえ、毎年5月に開かれている「八戸うみねこマラソン全国大会」に、「チェコ杯」を創設する運びとなった。人見さんは1928年のアムステルダム五輪女子800メートルで銀メダルを獲得した伝説の選手。チェコの首都プラハで開かれた国際大会で大活躍したことから、現地に記念碑が建立されている。八戸市の本覚寺には、人見さんのマネージャーを務めていた八戸市出身の故藤村テフさんの遺志を受け、人見さんの遺骨の一部が分骨されている。「チェコ杯」は特定種目の優勝者に贈呈する予定。
（２０）	**３人制バスケ「３x３」　プロチーム「八戸DIME」発足** 2020年東京五輪の正式種目に採用され、若者を中心に人気を集めている3人制バスケットボール「3x3（スリーバイスリー）」のプロチーム「八戸DIME（ダイム）」が、八戸市をホームタウンとして誕生した。スリーバイスリーは、バスケットコートの半分を使用し、3人対3人で行う。試合時間は10分で、先に21点を取ったチームが勝利する。今後は、国内最高峰リーグ「3x3.EXE PREMIER」（通称プレミアリーグ）への来季参戦を目指し、チームづくりなどを進める。